



学 校 便 り 琢 磨

第 1 1 号 R2.7.6 三豊市立詫間小学校

本校の新型コロナウイルス感染防止対策等について その10

— 学校におけるマスクの着用について —

令和2年6月30日付で、香川県教育委員会から、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課からの周知事項について、以下の内容の指示・指導がありましたので、本校におきましても、本日から同様の指導を児童に対して行ってまいります。

(文科省からの周知事項1)

- 熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう対応すること。その際、できるだけ身体的距離を保つこと、近距離での会話を控えるようにすることなどの配慮をすることが望ましいが、熱中症も命にかかわる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先すること。

本校の対応

天気・気温・湿度等から、健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合（基本的には「熱中症嚴重警戒レベル以上」で、その場合は校内放送等で周知する）は屋外・室内に関わらず、マスクを外すよう対応します。教職員も同様ですが、教職員が授業等で、近距離で児童と話す場合、大きな声で児童に向かって話す場合等には、マスクを着用したり、飛沫防止板（学校便り6号参照）を使用したり、児童との距離を十分に取ったりする対応をします。また、室内で、マスクを外すよう対応した場合は、換気を行ったり、近距離での大きな声での会話を伴う活動等は控えたりするようにします。

なお、マスクを外した状態で、大声で話したり、咳やくしゃみをしたりすることがないように、他人への思いやりについても、あわせて指導いたします。

もちろん、常時マスクを着用することが望ましいことには変わりないので、マスクを着用したい児童は、マスクを着用したままで結構です。

(文科省からの周知事項2)

- 児童生徒本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるよう指導すること。登下校時には、人と十分な距離を確保できる場合には、マスクを外すように指導すること。

本校の対応

熱中症警戒レベルには関係なく、児童本人が息苦しいと感じた時には、自分の判断でマスクを外したり、片耳だけかけて呼吸したりする（あごマスクはしない）よう指導します。屋外での活動、登下校時は、人との距離を確保した上で、マスクを外すよう指導します。

通学バスは、マスク着用が望ましいのですが、文科省からの周知事項に従い、息苦しさを感ずる場合は、マスクを外す（マスクを外した場合は、車内での会話をしない）ように指導します。

もちろん、児童本人が息苦しいと感じない場合は、マスクを外す必要はありません。

なお、こちらの内容についても、マスクを外した状態で、大声で話したり、咳やくしゃみをしたりすることがないように、他人への思いやりについても、あわせて指導いたします。

保護者の皆様へのお願い

学校の対応に関してご心配な点もあろうかと存じますが、「熱中症も命にかかわる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先すること」という文科省及び県教育委員会の指示・指導に従った対応を取っておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

また、マスクの着用に関しては発達段階等に応じて、お子様と話し合いをされ、具体的な対応について、お子様に指示いただけたらと存じます。

さらに、児童本人の判断等でマスクを着用しない場合も、どうしてもマスクの着用が必要な場合に備えて、ランドセルの中等に、予備のマスクを入れておくなどの準備をしていただけますと幸いに存じます。

※ 今後の感染拡大状況によっては、対応が変わる場合があります。

あの時、正直に話すことができなかったこと —鳩時計を壊したのは、本当はぼくです。—

私が通っていた幼稚園のろうかの大きな柱に、「鳩時計」が掛けてありました。1時間ごとに、その時刻になると、その時刻の数だけ鳴く「鳩時計」。幼稚園児の私には、不思議でたまりませんでした。本物の鳩ではないことは、幼稚園児ではありましたが分かっていました。不思議なのは、その時刻になると、巣箱から鳩の模型が飛び出して来て、しかも、その時刻の回数、間違わずに鳴くことだったのです。「どんな仕組みになっているのだろう？」と、鳩時計の中を見てみたい衝動に駆られました。でも、鳩時計が掛かっている場所は、とても高くて手が届きません。

というわけで、私は、よく鳩時計の近くでそれを見上げて観察していたのです。

ある日、私は、鳩時計から、チェーンがぶら下がっていることに気がきました。「きっと、このチェーンを1回引っ張れば、鳩は1回鳴いて、2回引っ張れば2回鳴いて・・・ということなんだ。園長先生が、こっそり引っ張っているんだ。」と、勝手に思い込んでしまいました。実は、園長先生がいなくても、鳩時計の鳩は勝手に鳴いていたこともすっかり忘れて、また、鳩時計に限らず、家にもあった柱時計は、その時刻の回数だけボンと音を鳴らす、鳩時計と大して変わらないシステムのことが当たり前にあることは、全く気にせず、とにかく、このチェーンと鳩には深い関係があると思い込んでしまったのです。

そういうわけで、私は、そのチェーンを握って、1回引っ張ってみました。ガリガリッと音はしましたが、何の変化もありませんでした。そこで、今度は思い切り、チェーンを引っ張ってみました。

ガシヤーン！柱から、鳩時計が落ちてしまって、大きな音を立てて壊れてしまったのです。その音を聞きつけて、園長先生と誰か、もう一人の先生が駆けつけてきました。

「どうしたん？けがはしてない？佳樹さんが落としたん？」

私の手には、チェーンがしっかり握られたままでしたので、誰がどう見ても、私がチェーンを引っ張って、鳩時計を落として壊してしまったことは明白です。しかし、言い逃れができない状態で、追い込まれてしまった私は、この後、とんでもないことを言ってしまったのです。

「〇〇ちゃんが、した。」

近くにいた〇〇ちゃんが目に入った私は、とんでもない嘘をついてしまったのです。

「うそやろ？〇〇ちゃんが、そんなことするわけないやん。本当は佳樹さんがしたんやろ？正直に言いなさい！」

私は、鳩時計を落として壊した罪と、それをかくすために、やってもない友達に罪をかぶせようとしたそれよりも何百倍も重い罪で、この後、園長先生たちに、こっぴどく叱られるはずでした。

ところが、その時、横にいた〇〇ちゃんが、

「わたしが、した。」

と、言ったのです。驚いたのは園長先生たちだけではありません。私が、誰よりも驚きました。『ぼくが落としたのに、〇〇ちゃんは、しとらんのに！何でそんなこと言うんやろ？』

「〇〇ちゃん、本当に〇〇ちゃんがしたん？」

と、園長先生たちは、とても優しく聞きました。〇〇ちゃんは、なぜか、

「わたしが、した。」

としか言いません。全くどういうことか分かりませんが、私と〇〇ちゃんの証言は一致してしまったわけで、園長先生たちも、まだ、私を十分疑っていながら、もうそれ以上は追及せずに、もちろん、〇〇ちゃんを叱ることもなしに、この一件は解決してしまいました。

それから45年は経ったでしょうか。私は同窓会で偶然会った「〇〇さん」に思い切ってあの時のことを謝りました。それまで、私は、あの時についたうその罪を、ずっと背負っていました。もっと早く謝れば、謝ることもできたはずなのですが、45年間も経ってしまっていました。

「えーっ、そんなことあったん？覚えとらんわ。それにしても真鍋君、ひどいなあ〜。悪人やなあ。私がしたと言ったん？それは、訳分からんと、勢いでそう言ったんやわ。」

と、〇〇さんは、笑い飛ばしてくれました。そして、クラスの仲間に、そのことを言いふらしてくれました。皆から、「ひどいやつだ！」と言われたおかげで、私は、この話を、皆さんにすることができました。